

本部申26号 2018年度

夏季手当

第1回団体交渉 (趣旨説明)を行う!

組
合

- ◆経営の基礎をなす定期収入は堅調に推移し、新幹線・在来線とも、インバウンド・ゴールデンウィークなどの利用増により、営業収益・運輸収入は6期連続の増収で過去最高であり当期純利益も過去最高の記録である。
- ◆あしかがフラワーパークでは前年比157%と驚異的な伸びを記録したが、列車運行、お客さま対応に課題を残した。そのような想定を超える事態に対しても日々努力して最善の対応をしてきたのは現場の力だ。
- ◆各系統で慢性的な要員不足の中、休日出勤や年休を消化できずに流してしまう組合員もいる。業績に結びつけてきたのは紛れもなく現場第一線の組合員の努力であり、そこには家族の支えあったことも忘れてはいけない。組合の要求に対し、会社が下回る回答を示す要素はない。
- ◆JR東日本は会社の持続的発展と経済の好循環のためにも日本一の鉄道会社として社会的役割・責務を果たすべき。グループ会社の労働条件・労働環境の改善も喫緊の課題だ。
- ◆基準内賃金の3.1ヶ月プラス5万円を要求した。要求は昨年と同額だが、満額回答を求める決意と受け止めていただきたい。5万円を定額で求めているのは、若い人と上位職および年齢が高い人との格差を少しでも是正し、公平感・納得感を持ってもらうためだ。18春闘では入社6年目以降の組合員からは納得感を得られていない。

会
社

- ◆増収増益となり営業収益・当期純利益が過去最高となった。全ての社員が安全・安定輸送のレベルアップ、サービス品質の向上、増収施策等に取り組んだ成果。会社として感謝申し上げる。
- ◆営業費用の増加は留意しておく必要がある。営業費や労務単価の上昇もあり修繕費が増加。営業費用は更なる増加が見込まれる。鉄道事業の特性としてコントロール出来る幅が少ない固定費の割合が大きい。収入やコスト動向など慎重に見極めていく必要がある。
- ◆大きな経営の課題が三点。①安全・安定輸送の更なるレベルアップ②鉄道生活サービス、IT・Suicaなど事業全般にわたる新しい成長戦略の実行③技術革新、ダイバーシティーの取り組みを通じた業務改革と生産性向上の推進である。
- ◆社員が気兼ねなく自己啓発や意欲あるチャレンジなどの職場風土を創って社員の成長を促す。また職場秩序を維持して、安心して働きたい環境を守り創っていくことをお願いしたい。
- ◆5期連続の賃金改定を行っている。昨年度は管理手当や扶養手当の見直しを行ってきた。エルダー社員の賃金水準の引き上げによる影響がある。総合的に判断していく必要がある。
- ◆鉄道事業という特殊性、高い公共性を有しているので突出感のないよう留意して議論を行いたい。



好業績は組合員の努力があってこそ!
本部と共に、組合員・家族が笑顔に
なれる夏季手当を目指そう!